HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第48号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合
Issue Date	2013-12-27
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73600
Type	periodical
Note	事務局: 北海道大学附属図書館; http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
File Information	DRFmonthly_48.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

月刊 DRF
Digital Repository Federation Monthly

第48号
No.48 January, 2014

【特集1】2014年の抱負を詠う
【特集2】2014年大予想！
【 連載 】今そこにあるオープンアクセス

2014年の抱負を詠う
～運営委員より新年のご挨拶～

むかし、北国に図書頭なる男ありけり。新春に一首奉れといはれけるに、何をか思ひたる、いたく酔ひて、図書寮の文に鳥に書きたるを愛でてよみけり。

鳴かぬなら　鳴かしてみしょう　リポジトリ
リポジトリ　今日は何処まで　行ったやら
新田孝彦（委員長／北海道大学）

学舎より　市井に染みいれ　ＯｐｅｎＡ・ＩＲ
（おーぷんえあぁ）
井上修（東北大学）

音痴にも　３０００ドルの　カラオケ屋
杉田茂樹（千葉大学）

Ｒｅｐｏｓｉｔｏｒｉｅｓ
ｃａｎ　ｎｏｔ　ｂｅ　ｉｎｄｅｐｅｎｄｅｎｔ
ｆｒｏｍ　ｔｈｅ　ｃｏｎｔｅｎｔｓ
甲斐重武（広島大学）

研究支援も、学修支援も。

図書館の未来、先生と一人三脚で切り開きたい！（字余り）
鈴木雅子（旭川医科大学）

来年は　奔馬のごとく　駆けるＯＡは（字余り）
内島秀樹（筑波大学）

ＣＳＩ　終わって一息　この１年
鈴木正紀（文教大学）

「Ｔｅａｐｏｔ：紀要しか入れられないと思ってた」
「なんでもいいの？素晴らしいじゃない：Ｔｅａｐｏｔ」
森いづみ（お茶の水女子大学）

ガックリしている場合ではありません。これは逆にチャンス!?ということで、２０１４年は新たな展開を目指したいと思います。

2014年の抱負を詠う　～DRF参加機関より～

今年は「2014年の抱負を詠う」と題し，DRF参加機関のリポジトリ担当者の皆様からも川柳を公募しました。

リマインド　ポジにとりましょ　愛あ～る

エコぴょんのおじさん

愛のある、ポジティブアプローチがポイントですね！【ろ】　愛をもって会いに行けば応えてくれるはず…と願いましょう。【コタ】「リ」「ポジ」「トリ」が巧みに読み込まれた秀句ですね【結丸】　どんどん行きましょー【潮呑】

理想は　ぽんぽん　実際は　とつとつ　リポジトリ（今）
理想は　ぽんぽん　実際も　とんとん　リポジトリ（抱負）

みどり

今年は　どんどん、どしどし　リポジトリ　といきたいものです。【ろ】　リズミカルにコンテンツ数を増やしましょう！【コタ】　とんとんくらいがちょうどいい？【結丸】　力んでぽしゃるな自由が取り柄【潮呑】

博論で　目立つといいな　リポジトリ

かぐやひめ２号

今年も博論公表を通じて、多くの若手研究者にＯＡ・リポジトリのメリットをお知らせしていきましょう。【ろ】　学内認知度を上げるチャンス！【潮呑】　勝負どころですね。【柳】

リポジトリ　理想は高く　ｃｌｏｕｄに（雲の上）

京成成田線

ＪＣで構築された機関リポジトリの発展を祈念して…【コタ】　雲の上は快晴に違いない！【潮呑】

白袴　紺に染めよう　今年こそ

ｍｉｎ２ｆｌｙ

さんざんＯＡについて研究していますが、実は海外の購読誌やＡＰＣのあるＯＡ雑誌に論文が受理された経験は未だありません（汗）　今年こそは出してリポジトリに載せたい。その場合、染まるのは紺ではなく黄か緑かもですが。

黄袴、紺袴、緑袴。リポジトリでの公開、お待ちしてます。【コタ】　髪も結いながら養生もしながら今年もよろしくお願いします。【結丸】　わっちも応援しんす【高尾太夫】

博論を　連れて飛び乗る　Ｃｌｏｕｄへ

より

軽々と【潮呑】　勢いのある一句。新年を迎えて、担当者の意気込みが感じられます。【ろ】　大空を飛び回りましょう！【柳】

みちざねと　別れて向かう　クラウドへ

竹内茉莉子（千葉大学）

別れを経ても前向きに。これまでの経験を糧に更なる高みに上っていくのですね。【ろ】　日本の先駆け。貴方の後ろに道が開けました。これからもどうぞよろしく。【結丸】　主なしとも春を忘れじ【潮呑】

ＯＡを　応援するぞ　リポジトリ

Ｔ・Ｙ

いつも心にこの言葉を。今年も頑張りましょう！【ろ】　おーえーとおーえんが韻を踏んでるんですよねです【結丸】　するぞするぞ【潮呑】

ことしこそ　悲願の総覧　連携へ

紅型

積み重なった願いを感じます。【コタ】　来年は達成の句をお待ちします！【潮呑】　意気込みが感じられる、力強い一句です。【柳】

集まれば　新しいこと　見えてくる

阪和線

雑談でも議論でも、人と話していると湧いてくるアイディアってあるものです。【コタ】　新しいことはわくわくしますね【潮呑】　困ったとき、挑戦したいとき。みんながいれば怖くない！【柳】

2014年　大予想！

DRF アドバイザーの方々に，
機関リポジトリや学術情報流通が
2014年にどうなるか，
予想してもらいました。

機関リポジトリ．次の10年

最近，高等教育の世界はMoocsの話題で盛り上がっているように思われる。Moocsの起源は大学の公開講座まで行き着くであろう。また，大学の学術研究の成果公開を担う大学出版会には，機関リポジトリの役割と重なる部分があるといえよう。公開講座にせよ大学出版会にせよ，その目的は大学の知識の開放である。

千葉大学のCURATOR（2003年5月試験公開）を嚆矢とする，日本における機関リポジトリはこの10年で急速な発展を遂げた。機関リポジトリの設置数は282，機関数は394，コンテンツ数は122万件，年間アクセス件数は8,303万件である。数値からみれば，我が国は世界有数のリポジトリ大国といって過言ではない。

しかし，我が国の機関リポジトリは実際のところ解決すべき多くの課題を抱えている。機関リポジトリの次の10年を目指し，改めてオープンアクセスを視座とし，大学の教育研究成果の発信による大学の知識の開放に向けた取り組みが求められている。新春に当たり，皆様の積極的な参加と発言をお願いしたい。

加藤 信哉（筑波大学附属図書館・機関リポジトリ推進委員会委員長）

先月号の2013年DRF10大ニュースでも紹介された，博士論文のインターネット公開義務化なども手伝って，今後，ますます多くの大学で機関リポジトリが運用されると思います。昨年10月1日に試行運用を開始した本学も，そのうちの1つでしょう。

リポジトリ構築にあたり，後発大学の利を活かし，DRFをはじめ，先駆的に携わってきた機関，担当者のみなさまが蓄積してきた情報を活用できました。この場を借りてお礼申し上げます。一方で，リポジトリ初心者にとってはハードルが高い部分があることもあらためて実感しました。本学では，映像コンテンツのアーカイブ，発信を視野に入れたこともあり，DSpaceを採用しましたが，採用に至るまでの技術仕様の検討，さらにメタデータ・エレメントの検討などにおいて，それを感じたところです（その意味では，JAIRO Cloudという選択肢があることは，大きな意義があります）。

2014年は，リポジトリにかかわる機関，人がますます多様になることが予想されます。研修やセミナー，シンポジウムの開催をはじめ，リポジトリ・コミュニティの活動が一層求められる年になりそうです。

小山 憲司（日本大学文理学部）

成長と混沌

【成長】　学術雑誌論文のオープンアクセス率，OA（メガ）ジャーナルのタイトル数，機関リポジトリ設置数については，来年も日本および世界レベルで，減少することはなく着実に増加し続けると思います。もしかしたら，日本でも科研費関係で義務化の動きがあるのかもしれません。

【混沌】　一方で，Beallリストに収録されるお金儲けが目的のOAジャーナルが増加し，投稿を呼びかけるスパムメールとだまされる研究者も増えるかもしれません。政策関係では，イギリスのフィンチ・レポートを巡る動向を見る限り，公的助成を受けた研究成果のOA化を機関リポジトリ，APC ，あるいは他の方法にするのか，イギリスを含めて世界各国で一悶着ありそうです。

とある調査に寄せられた研究者のOAジャーナルへのコメントを読む限りでは，研究者は混沌とした状態にいると思います。この点において，図書館（員）の活躍が見られると良いと思います。

just my two cents, **三根 慎二**（三重大学人文学部）

好評連載

今そこにあるオープンアクセス
Clear and present Open Access

第4回
ジェフリー・ベルに何が起こったのか？ What happened to Jeffrey Beall?

この連載の第1回でもご紹介したハゲタカOA出版社リストで有名なコロラド大学デンバー校の図書館員ジェフリー・ベルの言動が最近また物議をかもしている。きっかけとなったのは彼が”tripleC: Communication, Capitalism & Critique”というOA誌に発表した論文である。「オープンアクセス運動は実はオープンアクセスに関係ない(The Open-Access Movement is Not Really about Open Access)」というタイトルで，現在のOA運動は自分たちと意見を異にする出版社の言論の自由を否定し，研究者たちに不当な義務を課し，質の低いOA誌で論文を発表するよう圧力をかけている，といった極めて攻撃的な内容となっている。もともと金儲け主義の怪しいOA出版社を厳しく告発してきた人なので，ゴールドOAの弱点を指摘するのはうなずけるのだが，意外なのはグリーンOAも含めてOA運動全体を非難していることである。

例によってスティーヴン・ハーナッドがGOALメーリングリスト上でさっそく取り上げ，一斉に驚きと反発の声が上がることとなる。本当にベルが書いたのかという疑問も投げかけられるが，これに対しては本人が，書いたのは確かに自分だと名乗り出ている。いずれにせよ，この論文で展開されている主張は上記のようにいささか被害妄想的で，特にグリーンOAの義務化に関しては「オーウェル的」といった全体主義管理社会を示すレッテルまで貼り付けている。客観的な根拠に基づいているとは到底言えない。

ハーナッドはベルが陰謀論に毒されていると，批判と言うより，むしろ憐れみの風情だし，ジャン＝クロード・ゲドンに至っては，誰か酸素を持ってこい（デンバーは高地にある），と痛烈にからかっている。皮肉なのは，これもメーリングリスト上で指摘されていることだが，OAを批判するのにOA誌を利用していることである。

ただし，この”tripleC”誌は査読付きということになっているが，この論文は査読のない議論のコーナーに掲載されている。その点では，最初から実証的な研究論文ではなく単なる意見表明として発表されたものなので，多少過激なことが書いてあっても非難される筋合いはないと言えるかもしれない。

しかし，今回のベルの言動はやはりおかしいのである。別人のでっち上げではないかと誤解されるほどひっそりと発表し，後から名乗り出ているのも変だが，その後のやり取りでも，「このメーリングリストの多くのメンバーが，ハーナッドが活動していない他のリストに議論を移そうとしている，彼らはハーナッド一派の個人攻撃や弁論にうんざりしているのだ」といった発言をし，管理人のリチャード・ポインダーから警告を受けている。もちろん，個人攻撃をしているのはベルの方だとして。

強い意志がなくてはできない仕事をしている人だと思っていたのだが，彼もまたネットに潜む魔物に取りつかれてしまったのだろうか。

栗山正光
首都大学東京学術情報基盤センター教授
デジタルリポジトリ連合アドバイザー
【ReaD & Researchmap】
http://researchmap.jp/read0195462

次号予告

必見！

博士論文公開事例・Q&A ほか

Facebookやってます。
http://www.facebook.com/DigitalRepositoryFederation

月刊DRF読者アンケート受付中！
http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf_inq.html